

国 語

注意 一 答えは、すべて、解答用紙の決められた欄に書き入れなさい。  
二 漢字はかい書、仮名遣いは現代仮名遣いで書きなさい。  
三 問題用紙は二枚あります。

受 検 番 号

次の文章を読んで、後の1～6の問いに答えなさい。

本を読んでいると、「どうしてこんなことが書いてあるのだろうか？」と疑問に思う部分が多々ある。どんなに好きな作家でも、所詮はアカの他人が書いているのだから、当然である。読みながら、納得できないと感じたり、こう書いたほうがいいんじゃないかと自分なりに考えてみたりすることもあるだろう。

大切なのは、立ち止まって、「どうして？」と考えてみることだ。本というのは、そういった疑問を持った瞬間に、そういう疑問を持った人だけに、こつそりとその秘密を語り始めるものなのだ。疑問を持ったら、素通りせず、虚心にその一節に耳を傾けてみよう。たとえ、そのときには理解できなくても、そうして気にかけることで、その一節は読後も記憶に残り続け、何年か経ってから、「ああ、ずっと不思議だったけど、あれはそういうことだったのか！」と理解できるときが訪れるものである。そのとき初めて、長い時間をかけて、作者の最も深い場所から発せられた声は、読者にトドクのである。

長い歴史の中で多くの人が得てきた豊かな内容を、ほんの少しでも自分も得たいと考えるならば、まずはゆつくりと時間を取って、「なぜ、わざわざ、作者はこんな書き方をしているのだろうか？ なぜ、あえてこんなことを書いているのだろうか？」と考えるところから始めなければならない。それは、今日、明日役に立つことは教えてはくれないかもしれないが、自分自身のカチ観を大きく揺さぶるような経験をもたらしてくれるかもしれないのである。

言葉というものは、地球規模の非常に大きな知の球体であり、そのほんの小さな一点に光を当てたものが一冊の本という存在ではないかと思う。一つの作品を支えているのは、それまでの文学や哲学、宗教、歴史などの膨大な言葉の積み重ねである。そう考えるとき、私たちは、本を「先へ」と早足で読み進めていくというのではなく、「奥へ」とより深く読み込んでいくというふうに発想を転換できるのではないだろうか？

作者は一体、何を言おうとしているのだろうか？ そしてそのシュチュウウは、どんなところから来ているのだろうか？ それを探るのは、常に、奥へ、奥へと言葉の森を分け入っていくイメージである。

一冊の本をじっくりと時間をかけて読めば、実は、一〇冊分、二〇冊分の本を読んだのと同じ手応えが得られる。これは、比喩でも何でもない。実際に、その本が生まれるには、一〇冊、二〇冊分の本の存在が欠かせなかったからであり、私たちは、スロー・リーディングを通じて、それらの存在へと開かれることとなるのである。

(注) 所詮は＝結局は。 虚心に＝素直に。  
(平野 啓一郎 『本の読み方 スロー・リーディングの実践』による。)

1 線部①～⑤のカタカナの部分に漢字に、漢字の部分にひらがなに直して書きなさい。

2 線部Aについて、どのようなことが「当然である」と筆者は述べているか。最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 本がまったくの他人によって書かれていること
- イ 本に書かれている内容に疑問を抱くこと
- ウ どんなに好きな作家も、結局は他人であること
- エ 本を読んで、納得できないと感じること

3 線部B「本というのは、……語り始める」には、「本が語る」というように、本を人に見立てた表現技法が使われているが、これと同じ表現技法が使われている句を、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 手をついて歌申し上ぐる蛙かな
- イ 日暮れたり三井寺おりの春の人
- ウ 夏山や一足づつに海見ゆる
- エ 名月や児立ちならぶ堂の縁

4 線部Cについて、「多くの人が得てきた豊かな内容」とあるが、これとほぼ同じ内容がより具体的に書かれている部分を、本文中から二十五字以内で抜き出し、そのはじめと終わりの五字ずつを書きなさい。ただし、句読点を含むものとする。

5 線部Dの「常に」と同じ品詞のことは含むものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 音楽を静かに聞く。
- イ 帰ってすぐに宿題をする。
- ウ 教室をきれいに掃除する。
- エ 校庭にすみやかに集まる。

6 線部Eについて、「スロー・リーディングを通じて、それらの存在へと開かれることとなる」とはどういうことであると筆者は述べているか。六十字以内で書きなさい。

ある中学校の生徒会で、クラス対抗スポーツ大会を開こうと計画しています。原案を作る参考にするため、どのような種目を行うのがよいか調査することになりました。けんじさんは、アンケート用紙を生徒に配って記入してもらうことを提案しました。一方、かんさんは、生徒会の委員が校内で生徒にインタビューをして直接聞き取れることを提案しました。あなたは、けんじさんとかんさんが、それぞれの方法にどのような利点があると考えて提案したと思いますか。どちらか一人を選んで、その人が提案した方法の利点について、もう一方の方法と比較しながら、《注意》にしたがって書きなさい。

《注意》(1) あなたが選んだ方の名前を○で囲むこと。

(2) 原稿用紙の正しい使い方にしたが、百字以上、百四十字以内で書くこと。

国 語

三

次の詩とその解説文を読んで、後の1〜7の問いに答えなさい。

生命は

生命は  
 自分自身だけでは完結できないように  
 つくられているらしい  
 花も  
 めしべとおしべが揃っているだけでは  
 不十分で  
 虫や風が訪れて  
 めしべとおしべを仲立ちする  
 生命は  
 その中に欠如を抱き  
 それを他者から満たしてもらおうのだ

世界は多分  
 他者の総和  
 しかし  
 互いに  
 欠如を満たすなどは  
 知りもせず  
 知らされもせず  
 ばらまかれている者同士  
 無関心でいられる間柄  
 ときに  
 うとましく思うことさえも許されている間柄  
 そのように  
 世界がゆるやかに構成されているのは  
 なぜ？

花が咲いている  
 すぐ近くまで  
 虹の姿をした他者が  
 光をまとい飛んできている  
 私も あるとき  
 誰かのための虹だったろう  
 あなたも あるとき  
 私のための風だったかもしれない

生命というものは、自己に同意し、自己の思い通りに振舞っている末には、ついに衰滅してしまうような性質のものではないでしょうか。その安易な自己完結をヤブる力として、ことさら、他者を介入させるのが、生命の世界の維持原理なのではないかと思われま

れず。もしも、このような生命観が見当違いでないとすれば、生命体はすべてその内部に、それ自身だけでは完結できない「欠如」を抱いており、その欠如を「他者」によって埋めるよう、自己を運命づけている、ということができそうです。他者なしでは完結することのできない生命、そして、おたがいがおたがいにとって必要な他者である関係、これは、もしかしたら生命の世界の基本構造なのではないか——これが私の帰結だったのです。

いうまでもなくこの構造は人間をふくんでいます。つまり私も、あるとき、ある人にとつての虹や蜂や風であり、ある人の幸・不幸の結実を知らずに助けたり、また私の見知らぬ誰かが、私の結実を助けてくれる虹や蜂や風なのです。

この「他者同士」の関係は、おたがいがおたがいのための虹や風であることを意識しない関係です。ここがいいのです。他者にたいして、「一々、レイを言わなくてもいい。恩に着せたり、また、恩に着せられたりということがありません。

世界をこのように作った配慮は、実に巧妙で粋なものだと私はつくづく思います。ひとつの生命が、自分だけで完結できるなどと万が一にも自惚れないよう、すべてのものに欠如を与え、欠如の充足を他者に委ねた自然の摂理の妙を思わないわけにはいきませ

ん。私は今日、どこかの誰かが実るための虹だったかなと想像することは、楽しいことだと思のですが、どうでしょうか。  
 (吉野 弘 『詩の楽しみ』による。)

(注) 摂理＝自然界を支配している道理、法則。

1 線部①〜⑤のカタカナの部分の漢字に、漢字の部分をつらな直して書きなさい。

2 線部Aについて、「他」という漢字の旁と組み合わせ、別の漢字をつくることができる偏が、行書で書かれた次の選択肢の中に一つある。ア〜エから選び、記号で答えなさい。

ア 𠂔 イ 𠂕 ウ 𠂖 エ 𠂗

3 線部Bについて、「自己に同意し、……衰滅してしまう」とほぼ同じ意味が簡潔に表現されている部分を、解説文の中から七字で抜き出して書きなさい。

4 線部Cについて、「このように作った」とあるが、どのように作ったと筆者は考えているか。詩の中のことばを用いて、解答欄の「作った。」につながるように、三十字以内で書きなさい。

5 線部Dの「私は」は、どの文節にかかるか。次のア〜エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 虹だったかなと イ 想像する ウ 楽しい エ 思うのですが

6 線部について、「誰かのための虹」の役割を筆者はどのように述べているか。解説文から抜き出して、解答欄の「すること。」につながるように、二十字以内で書きなさい。

7 この詩について説明したものとして最も適当なものを、次のア〜エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 常識に反する内容を断定的に書くことで、巧妙で神秘的な生命の世界を賞賛しようとしている。
- イ 多くの事例を提示することで、自分自身で完結する生命への非難をわかりやすく表現している。
- ウ 読み手に疑問を投げかけるかたちで、世界のゆるやかなしくみへの感嘆の気持ちを表している。
- エ 科学的な事実をもとにして、互いに無関心な生命の世界のあり方に対し強く警告を発している。

受 検 番 号

国語

解答用紙

受検番号

※印の欄には何も記入しないこと。

※ 一

6	5	4	3	2	1
		はじめ			①
					だっ
					②
					く
					③
		終わり			④
					⑤

※ 二

選んだ方の名前									
けんじさん									
かななさん									

← 100字 →  
← 140字 →

※ 三

7	6	5	4	3	2	1
						①
						る
						②
						い
						③
						める
						④
						⑤

※

※